

コンクリート技術交流会を開催

11月17日、東京・両国の国際ファッションセンターKFCホールで「第7回コンクリート技術交流会」(主催：日本コンクリート技術(株)が全国各地から約170名の参加者を集め開催された。

開会挨拶に立った長瀧重義氏(東京工業大学名誉教授)は、本交流会の趣旨として現場に密着した技術を紹介する場と捉え、参加者には活発な情報交換を促し期待を寄せた。



開会挨拶の長瀧氏

続いて午前中には「温度ひび割れのしないコンクリートを目指して」をテーマにパネルディスカッションを開催、金津努氏(電力中央研究所)をコーディネータに、施工者側から石田知子氏(大林組)、江渡正満氏(清水建設)、大友 健氏(大成建設)、材料側から小田部裕一氏(住友大阪セメント)、谷村 充氏(セメント協会)らがパネリストとして登壇。各パネリストから現状の報告、事例紹介やこれまでの経験が語られたところで、金津氏によるリードで話題が展開され、技術面やコストの点をはじめ様々な考慮や検討がなされていることなどが紹介された。ディスカッションの最後には、今後も様々な情報を的確に受け渡し、それぞれの立場で理解して問題解決に向かって欲しいと結んだ。また、会場に集まった同様の悩みを持つ技術者からも多くの質問が上がるなど大いに意見交換がなされた。

昼をはさんだ午後からは、パネル出展している10社により混和材(剤)やステンレス鉄筋、また養生や維持管理用の製品

や計測器、PCa製品据付機などに関連するプレゼンテーションがあり、あわせて会場奥に設けられた展示スペースで個別の技術紹介が行われた。

さらに技術発表として「超遅延剤による温度ひび割れ防止事例について(北沢建設・牛山茂則氏)」、「近赤外分光法によるコンクリート劣化調査について(前田建設工業・舟橋政司氏)」、「コンクリート用混和材としてのフライアッシュ(電力中央研究所・山本武志氏)」、「コンクリート二次製品によるi-Constructionの推進(ヤマウ・田中圭司氏)」、「建設業界における女性技術者の活躍と課題(月の泉技術士事務所・渡邊弘子氏)」の5件の講演があり、それぞれ会の趣旨に沿った現場密着型の技術紹介には、会場からも活発な質問があがった。

閉会に当たり、主催者代表の篠田佳男氏からは「本日は90以上の会社や団体などの組織から人が集まった。ここで得た情報や知識をそれぞれ持ち帰り明日から早速生かして欲しい」との挨拶で幕を閉じた。

終了後に行われた意見交換会は、日本コンクリート工学会・丸山久一会長(長岡科学技術大)が乾杯の音頭をとり、土木研究所理事長・西川和廣氏を始めとする挨拶のなか、東北・北陸各地から取り寄せた日本酒を味わいつつ各所で技術談義に花が咲いた。



パネルディスカッションの様子